

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

< 26週 > 無菌性髄膜炎 - 定点当たり報告数は前週に引き続き増加しており、1999～2001年同週の平均の約3倍の報告数となっている / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

< 腸管出血性大腸菌感染症 > 第26週の報告数は83例(うち有症者は56例)



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - Vero毒素産生性大腸菌 / 無菌性髄膜炎



速報
P.6-7

2002年、米国で発見されたバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌 (MMWR Vol. 51/No. 26/2002 全訳)



海外感染症情報
P.8-9

WHOがヨーロッパ地域のポリオ撲滅を宣言 / バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌 - 合衆国2002年 / イタリアCampania地方での麻疹流行で死亡3例と脳炎13例が発生 / 他



感染症の話
P.10-12

尖形コンジローム
1999年4月以降、他の性感染症と同様増加傾向を示しており、また徐々に女性の占める割合が高くなってきている。



読者のコーナー
P.13



グラフ総覧(26週)
P.14-20

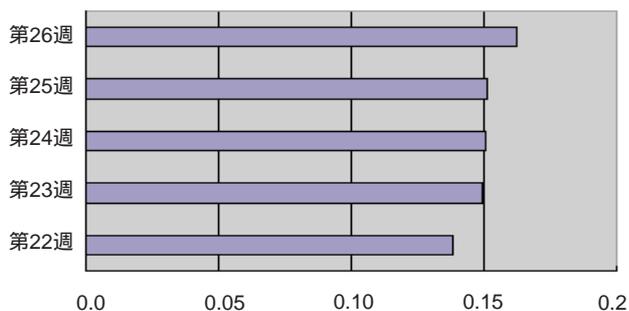


26週のデータ
P.21-28

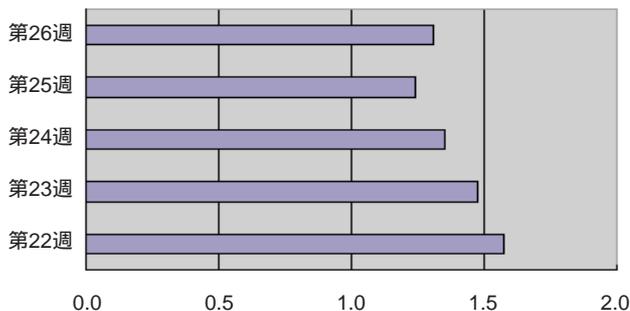
最近の注目疾患－5週間の動き

咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、ヘルパンギーナ、無菌性髄膜炎などの定点当たり報告数は、いずれも前週に比べて増加している。水痘の定点当たり報告数は前週に比べて殆んど不変である。

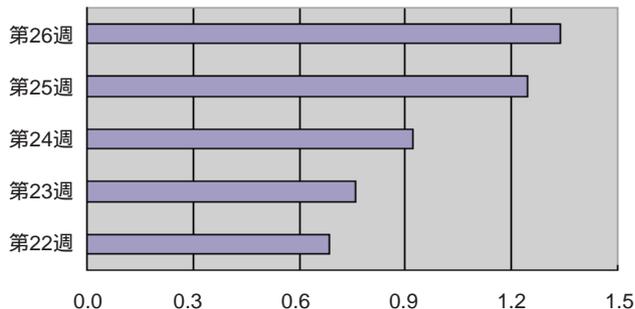
咽頭結膜熱



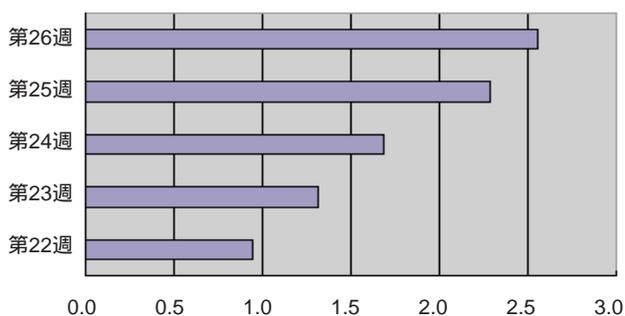
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



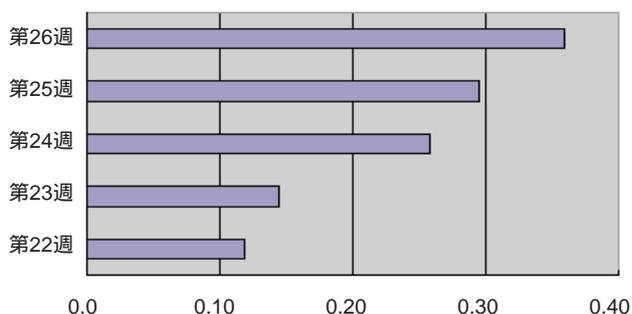
手足口病



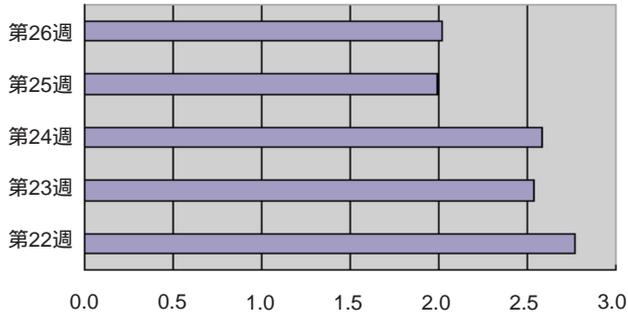
ヘルパンギーナ



無菌性髄膜炎



水痘



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。

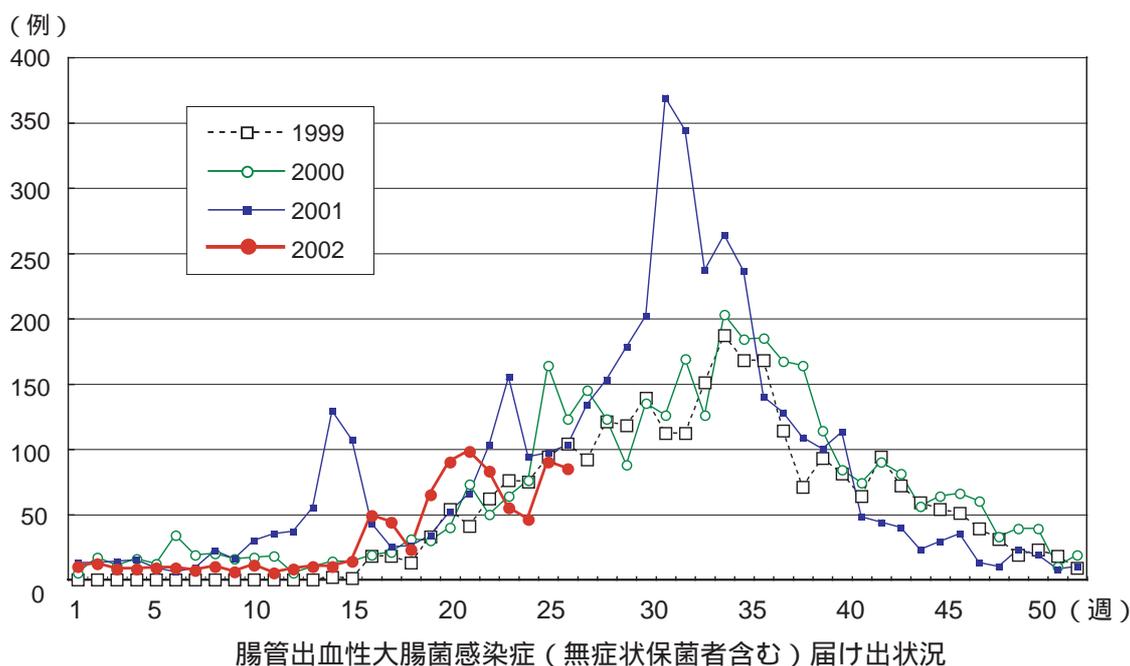
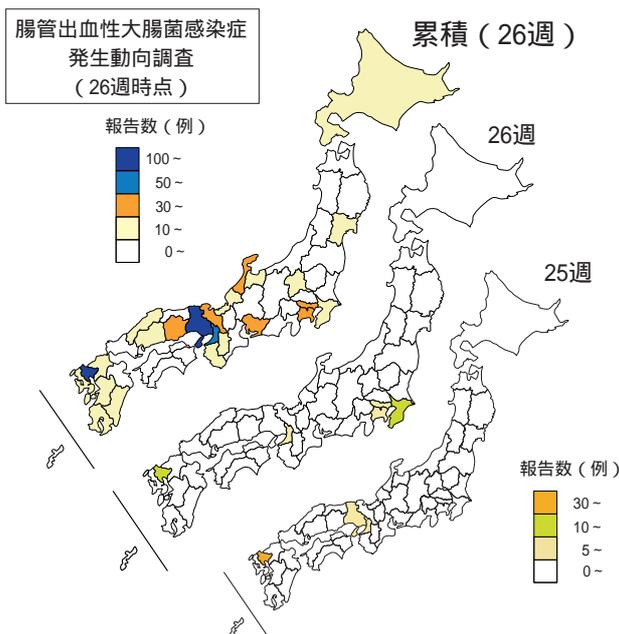


注目すべき感染症

腸管出血性大腸菌感染症

2002年第26週の報告数は83例で(昨年同時期は88例)、性別では男36例、女47例であり、うち有症者は56例であった。都道府県別では佐賀県14例、千葉県12例、大阪府8例の順であるが、佐賀県では2保育園でのそれぞれO111とO26による集団発生が含まれている。また、愛知県では同一家族内4例の発生もみられた。5歳毎の年齢階級別にみると(0歳、1～4歳、70歳以上は別扱い)、1～4歳15例、5～9歳12例、20～24歳10例の順である。血清型についてはO157が61例(VT1 2例、VT2 32例、VT1+VT2 25例、不明2例)、O111が13例(VT1 11例、VT1+VT2 1例、不明1例)、O26が6例(VT1 3例、VT2 1例、VT1+VT2 2例)であった。

第26週までの累積報告数は862例(昨年同時期は1,195例)となっている。累積報告数を都道府県別にみた場合、兵庫県103例、佐賀県100例、大阪府95例の順であり、また、5歳毎の年齢階級別にみると(0歳、1～4歳、70歳以上は別扱い)、1～4歳220例、5～9歳132例、20～24歳62例の順である。





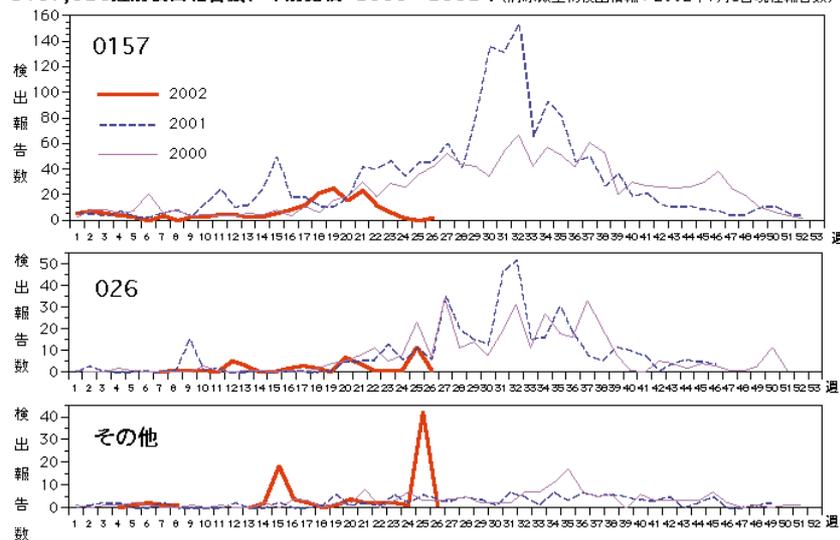
病原体情報

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2002年7月5日現在報告分)

ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌 2002年

検出総数は301件で、うちO157が171件、O26が44件、その他の血清型が86件である。例年と比較して、今年はO157、O26以外の血清型の報告が多く、第15週をピークに佐賀県の保育所で発生したO121集団発生で23件の報告があり、最近では、第25週をピークに佐賀県の保育所を中心としたO111集団発生で44件が報告されている。

O157,O26週別検出報告数、年別比較 2000～2002年(病原微生物検出情報:2002年7月5日現在報告数)



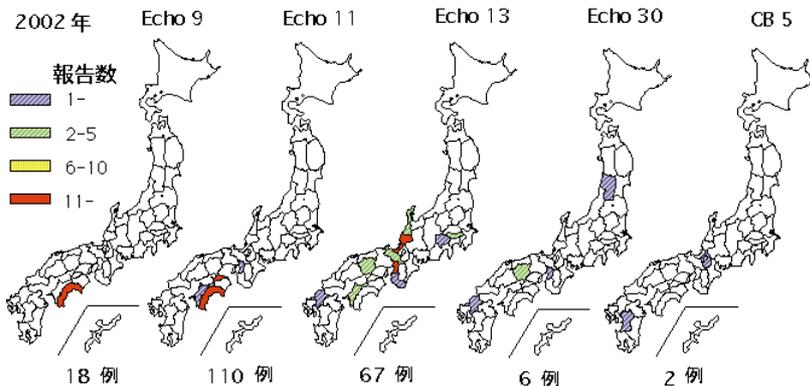
各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス 2002年

エコーウイルス(E)27件(11型110、13型67、9型18、18型9、30型6、16型5、14型2)、ムンプスウイルス21件、B群コクサッキーウイルス(CB)3件(5型2、3型1)の分離が報告されている。E11は香川県94、高知県14と、ほとんどが四国からの報告であり、第20週以降の香川県からの報告が依然増加している。E13は福井県34、大阪府12など、北陸・近畿地方を中心に分離が報告されており、その他に山梨県からも報告されている。E9はすべて高知県から第22週以降の分離報告である。E18とE16はすべて奈良県からの分離報告である。

都道府県別無菌性髄膜炎患者からの主なウイルス検出状況、2002年
(病原微生物検出情報:2002年7月5日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。





2002年、米国で発見されたバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

Staphylococcus aureus Resistant to Vancomycin - United States, 2002

(MMWR Vol. 51/No. 26/2002 全訳)

黄色ブドウ球菌は院内および市中感染症の原因菌である。1996年に日本から初のバンコマイシン低感受性黄色ブドウ球菌が臨床分離され報告された。この報告の菌株に対するバンコマイシンの最小発育阻止濃度(MIC)は $8 \mu\text{g/mL}$ で、National Committee for Clinical Laboratory Standards(NCCLS)の基準では低感受性と判定された。2002年6月までに米国ではバンコマイシン低感受性黄色ブドウ球菌(VISA)による感染例が8例報告されている。このレポートは、最初のバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)(バンコマイシンMIC $32 \mu\text{g/mL}$)が米国の患者から分離されたことを報告するものである。VRSAの出現により、医療現場における薬剤耐性菌の拡散を防ぐ対策や、抗菌薬の適正使用が更に求められる。

2002年6月に、ミシガン州在住の40歳の患者のカテーテル刺入部位からVRSAが分離された。この患者は糖尿病、末梢血管障害、慢性腎不全を抱え、A透析センターにおいて外来透析中であつたが、2002年4月より第1趾の慢性潰瘍に対し、バンコマイシンを含む抗菌薬の投与を受けていた。2002年4月には壊疽の第1趾を切断した。その後、血液透析用の動静脈グラフトにMRSAが感染し敗血症を起こしたが、バンコマイシンとリファンピシンの投与、感染したグラフトの除去により軽快した。6月にはカテーテル刺入部位の感染が疑われ、留置されていた透析用カテーテルを抜去した。この部位の培養からオキサシリン(MIC $> 16 \mu\text{g/mL}$)とバンコマイシン(MIC $> 128 \mu\text{g/mL}$)に耐性を示す黄色ブドウ球菌が分離された。カテーテル抜去後1週間で刺入部位は治癒したが、慢性足趾潰瘍が感染を起こし、VRSA、バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)、クレブシエラ・オキシカの3菌種が分離された。以前カテーテルが刺入されていて治癒した部位と鼻腔からは、VRSAは分離されなかった。現在患者の容体は安定しており、外来において潰瘍に対するケアと、トリメプリム・スルファメキサゾールの投与を受けている。

カテーテル刺入部位から分離されたVRSAは、当初病院で市販のMIC検査システムで同定され、ミシガン州保健局とCDCで確認された。CDCでは生化学的性状と $gyrA$ 、16SリボソームRNAの塩基配列の双方を用いて同定した。腸球菌に特徴的な遺伝子は検出されなかった。バンコマイシン、テイコプラニン、オキサシリンのMICは微量液体希釈法でそれぞれ $> 128 \mu\text{g/mL}$ 、 $32 \mu\text{g/mL}$ 、 $> 16 \mu\text{g/mL}$ であった。この菌は通常は腸球菌が保有する $vanA$ 遺伝子を持っており、(バンコマイシンやテイコプラニンなどの)グリコペプチド系の抗菌薬のMICが高いことを裏付けた。この菌はまた(MRSAに特徴的な)オキサシリン耐性遺伝子 $mecA$ も保有していたが、クロラムフェニコール、リネゾリド、ミノサイクリン、キヌプリスチン / ダルホプリスチン、テトラサイクリン、トリメプリム / スルファメキサゾールには感性であった。

現在VRSAが他の患者、医療従事者、家族や他の関係者に伝播するリスクを評価するための疫学的、微生物学的調査を行っている。今のところ、当該患者以外からはVRSAは分離されていない。

A透析センターでの感染対策を調査したところ、全ての医療従事者はCDCガイドラインに準拠した標準予防策(standard precaution)を励行していた。VRSAの分離以後、この透析センターではCDC勧告に従い、当該患者に接する際には手袋、ガウン、マスクを着用し、当該患者の透析は他の患者から物理的に離れた場所で一日の最後に行い、担当技師を決め、専用の医療器具を用い、スタッフに適切な感染対策を教育するなどの対策を取っている。A透析センター以外で当該患者が治療を受けた医療施設の感染対策の評価も、現在進行中である。

MMWR編集部から

このレポートは、バンコマイシンに耐性を示す黄色ブドウ球菌が臨床分離された最初の報告である。黄色ブドウ球菌は幅広くヒトの感染症を引き起こし、また院内感染の主要な原因菌でもある。新規の抗菌薬が使用されると、黄色ブドウ球菌に耐性が生じることが繰り返されてきた。当初有効であったペニシリンに対しても1950年代にはペニシリン耐性菌が出現し、病院や老人ホームで問題となった。これに対しメチシリンなどが用いられたが、1980年代にはメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)が出現し、多くの病院で蔓延、これがバンコマイシンの消費を増やす原因となった。1990年代後半にはVISAの出現が報告されるようになった。

VREでは*vanA*、*vanB*、*vanD*、*vanE*、*vanF*、*vanG*などの獲得型バンコマイシン耐性遺伝子が報告されてきたが、黄色ブドウ球菌からは報告されていなかった。試験管内では、*vanA* 遺伝子が腸球菌から黄色ブドウ球菌に移りうることを示されていた。今回のVRSAでも、VREから遺伝子が移った可能性がある。このVRSAは、リネゾリド、キヌプリスチン/ダルホプリスチンなどの新規の抗菌薬を含んだ複数の抗菌薬に感性を示す。

1997年にはHealthcare Infection Control Practices Advisory Committeeが、バンコマイシン低感受性黄色ブドウ球菌による感染症の予防とコントロールに関するガイドラインを発行した。州保健局によっては、CDC勧告に基づきVISA/VRSAを封じ込める対策が取られつつある。医療現場ではVISA/VRSAを保有する患者は個室に配置し、専用の医療器具を用いるべきである。また、担当する医療従事者は接触予防策(ガウン、マスク、手袋の着用や、抗菌石鹸による手洗いなど)を励行すべきである。A透析センターでは、VRSAの分離後直ちにこれらの対策が取られた。現在まで、この菌が他の患者や医療従事者に広がったことは確認されていない。

全米の全ての医療施設において、医療現場での耐性菌の拡散を防止するための現行のガイドラインを忠実に励行する方策をとるべきである。黄色ブドウ球菌が分離された場合には、MICを用いてバンコマイシン感受性を評価すべきである。バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌が疑われた、あるいは確認された場合には、直ちに州と郡の保健局と、CDC内National Center for Infectious DiseasesのDivision of Healthcare Quality Promotion(電話800-893-0485)に連絡すべきである。

(訳者 : 国立感染症研究所細菌第二部 土井洋平)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

WHOがヨーロッパ地域のポリオ撲滅を宣言

Eurosurveillance Weekly 2002年7月4日

WHOヨーロッパ地域が3番目のポリオ撲滅地域と認定され、6月21日にコペンハーゲンで開催されたヨーロッパ地域ポリオ撲滅認定会議で宣言された。

ヨーロッパ地域では、土着ポリオは過去3年間以上発生していない。ヨーロッパの最後の土着ポリオ野生株症例は、1998年の東トルコで2歳のワクチン未接種の男児が麻痺を起こした例であった。なお、ポリオ流行国からの流入は依然として脅威である。2001年だけで、ブルガリアのジブシーの小児3例のポリオ患者と、グルジアで非麻痺例が1例報告されている。全てインド亜大陸起源のポリオウイルスであった。輸入例に対するワクチン接種、サーベイランス、輸入患者対応能力に加え、世界規模のポリオ撲滅実現のための効果的なポリオウイルス封じ込めを確実にするための一部として、ヨーロッパ各国はポリオウイルスを保有している全ての研究所のリストアップを現在行っている。

1988年に開始された世界ポリオ撲滅運動以来、WHOの他の2地域でポリオ撲滅が宣言されている(1994年にアメリカ地域、2000年に西太平洋地域)。ポリオ患者発生数は1988年に125カ国で推定35万人から、2001年にはわずか10カ国、480例に激減した。

バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌 - 合衆国2002年

MMWR Weekly 2002年7月5日

バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)が、2002年6月に、ミシガン在住で糖尿病、末梢血管障害、慢性腎不全の40才患者のカテーテルから分離された。この患者は透析を受けていた。2001年4月足の慢性潰瘍治療のため、バンコマイシンを含む抗菌薬治療を複数クール受けていた。2002年4月、壊疽のため足先切断術を受けた。また、人工血管シャント移植部位からMRSAが検出され、バンコマイシン、リファンピシンが用いられ、シャントは除去された。6月に、透析カテーテル挿入部の感染を起こし、刺入部とカテ先端から、oxacillin(MIC > 16 μg/mL)とバンコマイシン(MIC > 128 μg/mL)に耐性の黄色ブドウ球菌が検出された。現在患者は臨床的に安定している。積極的な創傷治療とST合剤による全身治療が行われている。VRSAの遺伝子配列の検討により、腸球菌由来の *vanA* (vancomycin resistance gene) と、oxacillin耐性遺伝子の *mecA* (oxacillin resistance gene) が認められた。分離株は、chloramphenicol, linezolid, minocycline, quinupristin/dalfopristin, tetracycline, trimethoprim/sulfamethoxazoleに感性であった。

VRSAの二次感染に関する調査が行われており、現時点でVRSAの二次感染は見つかっていない。

(本記事の全訳は本号6ページ「速報」に掲載)

イタリアCampania地方での麻疹流行で死亡3例と脳炎13例が発生

Eurosurveillance Weekly 2002年7月1日

1990年代に観察された麻疹ワクチン接種率の向上にも関わらず、イタリアでは、2000年での24カ月齢までの全国ワクチン推計接種率はまだ80%未満であり、多くの南部地域では60%未満である。2002年2月の調査で最も麻疹発生率が高かった地域はCampania地方であった。この報告で

は、Campania地域における2002年1～5月のサーベイランスの予備的な調査結果を報告する。

Campania地域では、平均50人の小児科医が0～14歳の小児患者約41,000人(地域の小児科患者総数の4%)を診察し、5カ月間で合計981例の患者が報告された。1～5月の麻疹発生率は、14歳未満小児10万人当たり2,300例であった。ワクチンを受けていた患者は6%で、その地域での1998年に誕生した小児群の麻疹ワクチン接種率は65%であった。

1～5月に368人が麻疹で入院し、63例が肺合併症、13例が脳炎を合併し、3例(6カ月齢、4歳、10歳)が死亡した。入院患者の大部分(258/368)がナポリのCotugno病院で発生した。

新たな流行発生を防止するため、すべての地区で高いワクチン接種率を達成することが重要であり、定期ワクチン計画の強化の他に、5～13歳全員への接種実施も考慮すべきである。

イタリアPugliaのSan Giovanni Rotondoへの巡礼者に集団発生したレジオネラ症

Eurosurveillance Weekly 2002年7月4日

2002年5月末に、2、3日間にレジオネラ症患者6例の発生が報告された。患者全員が2002年5月14日から19日の間に発病した。

患者4例は66歳から79歳(女性3人)で、2002年5月7日から12日にPietrelcina、Benevento、San Giovanni RotondoとMonte Sant'Angeloで聖堂、大聖堂を訪れるツアーに参加した。そして、以前に集団感染の発生が報告され、対策が実施されたホテルに宿泊した。

第5例目は78歳の女性で、5月7～9日まで別のツアーグループで巡礼に行った。旅程はSan Giovanni RotondoとMonte Sant'Angeloを訪問し、San Giovanni Rotondoで同じホテルに泊まった。この患者は死亡した。

第6例目は高齢の女性で、5月13～15日まで第3のツアーグループでSan Giovanni Rotondoに巡礼に行った。San Giovanni Rotondoでは先の2群とは異なるホテルに宿泊したが、Monte Sant'AngeloではSan Michele聖堂を訪れ、Pietrelcinaで同じレストランで昼食をとった。

Istituto Superiore di Sanitaと協力して現地および地域当局は、直ちに疫学・環境調査を実施した。以前集団感染例が発生したホテルでは、レジオネラ菌は分離されなかった。3つの巡礼者グループが訪れた全ての場所と、利用したバスの調査を行った。今回の集団感染では、パッケ-ジツアーが共通の訪問場所を複数含むとき、レジオネラ症感染源を特定することの難しさが目立った。

Q熱 カナダ

ヘルスカナダ Infectious Diseases News Brief July 5, 2002

カナダの7州で流行した肺炎患者788例の急性期と回復期から得た血清で、*Coxiella burnetti*の抗体検査を行った。109検体(13.8%)で抗体陽性であり、患者7人は急性Q熱の症状を示した。*Coxiella burnetti*感染の証拠が見つかった患者は7州全てにわたっていた。急性Q熱の症状を示した7例のうち3例はManitobaの症例であり、この州にQ熱が潜在している可能性が示唆される。さらに、以前報告例のなかったNewfoundlandの急性Q熱が注目をあびた。そこでは、ヤギ牧場で一度Q熱の報告があっただけである。

情報源: Canadian Journal of Infectious Diseases, Vol 13, No 3, May/June 2002

<http://www.pulsus.com/Infdis/home.htm>



感染症の話

尖形コンジローム

尖形コンジローム(*Condyloma acuminatum*)は、ヒトパピローマウイルス6、11型などが原因となるウイルス性感染症で、生殖器とその周辺に発症する。淡紅色ないし褐色の病変で特徴的な形態を示し、視診による診断が可能である。自然治癒が多い良性病変であるが、パピローマウイルスの型によっては悪性化にも注意しながら経過観察することが必要となる。

疫学

性交またはその類似行為によって感染する疾患で、世界中に分布している。患者の大部分は性活動の活発な年代にみられるが、稀に両親や医療従事者の手指を介して幼児に感染し、発症することがある。また、分娩時の垂直感染により、乳児が喉頭乳頭腫を発症する可能性も示唆されている。我が国では年間10万人あたり30人程度の発症がみられているが、1999年4月以降、他の性感染症と同様増加傾向を示している。また、徐々に女性の占める割合が高くなってきている(IDWR、発生動向総覧、2002年4月コメント参照)。

病原体

ヒトパピローマウイルス(図1)は小型のDNAウイルスで、約8,000塩基対の2本鎖環状DNAが正二十面体のキャプシドに包まれた構造をしている。エンヴェロープはない。ウイルスが増殖できる培養細胞系がないため、患者から分離されたウイルスは、ゲノムDNAの塩基配列の相同性に基づいて90以上の型に分類されている。型によって感染部位と病理像が異なる。皮膚に感染する型では、1、2、4型などが良性の疣、5、8、47型などが皮膚癌の原因となり、粘膜に感染する型には、尖形コンジロームを引き起こす6、11型(低リスク型)や子宮頸癌の原因となる16、18、31型など(高リスク型)がある。尖形コンジロームから1、2型や16、18型が分離されることもあるので、感染しているウイルスの型を知ることが、予後の推定に重要となる。

ウイルスは表皮基底層細胞に感染する。感染細胞では、ウイルスの非構造蛋白質であるE6およびE7蛋白質が細胞のp53とpRb蛋白質の機能を阻害し、細胞のDNA合成系を活性化してウイルスDNAの複製に利用する。DNA合成を行う細胞は分裂・増殖し、一方ではp53を介したアポトーシスも阻害されるため感染細胞の異常な増殖が起こり、病変が形成されると考えられている。

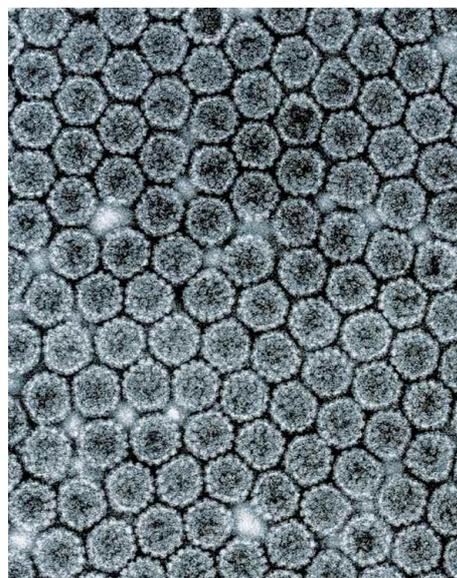


図1. ヒトパピローマウイルス粒子
(国立感染症研究所ウイルス第二部 松倉俊彦主任研究官提供)

臨床症状

一般に自覚症状に乏しいが、外陰部腫瘤の触知、違和感、帯下の増量、掻痒感、疼痛が初発症状となることが多い。表面が刺々しく角化した隆起性病変が特徴(図2)で、淡紅色～褐色の乳頭状、鶏冠状、あるいはカリフラワー状と表現される。好発部位は、男性では陰茎の亀頭部、冠状溝、包皮内外板、陰囊で、女性では膣、膣前庭、大小陰唇、子宮口、また男女とも、肛門及び周辺部、尿道口である。子宮頸部、膣に発症した場合は、外陰の病変同様の症状を呈することもあるが、flat condylomaと呼ばれる扁平な病変を形成することが多い。20～30%は3カ月以内に自然消退する。

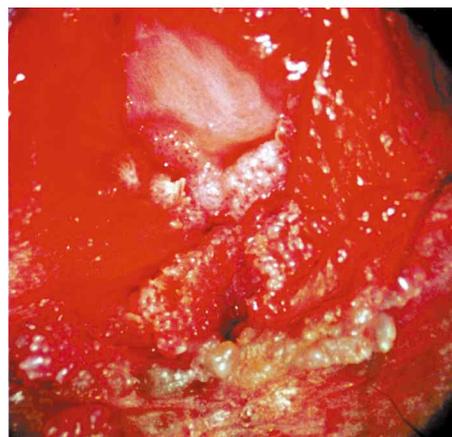


図2. 女性外陰部のコンジローム
(帝京大学医学部附属溝口病院産婦人科 川名 尚教授提供)

診断

典型的な尖形コンジロームは乳頭状、鶏冠状の特徴的な形態を持つため、視診で十分診断がつくことが多い。病巣範囲を確定するには、子宮頸部や膣、外陰部を酢酸溶液で処理した後、コルポスコピーで観察する。形態的に類似した悪性病変もあるため、確定診断は組織学的に行う。組織学的特徴は軽度の過角化、舌状の表皮肥厚、上皮細胞の乳頭状増殖で、表皮突起部位の顆粒層に濃縮した核と細胞質が空胞化した像(koilocytosis)がみられる。

ヒトパピローマウイルスのDNAは容易に検出できる。病変部のホルマリン固定検体や生検試料、膣の擦過細胞から抽出したDNAを鋳型に、PCRによってウイルスDNAの一部を増幅し、そのDNA断片中に分布する複数の制限酵素切断点を調べることで、HPV DNAの有無及び型を判定できる。臨床試験会社で請け負っており、1～3週間で成績が得られる。多くは6、11型の感染によるもので、悪性化することはないが、高リスク型が検出された場合は経過観察に注意を要する。

治療・予防

外科的治療には、切除、CO₂レーザー蒸散法、電気メスによる焼却法や液体窒素による凍結法がある。CO₂レーザー蒸散法は、治療による周辺組織の損傷が少ないこと、高い治療効果が速やかに得られることから最も優れている。薬物療法としては5-フルオロウラシル軟膏、プレオマイシン軟膏などを塗布する方法がある。外国では、10～25%ポドフィリンアルコール溶液の塗布が行われているが、我が国では市販されていない。細胞診で陰性になった場合に治癒とする。

通常、ヒトパピローマウイルスの感染から尖形コンジロームの発症には数週間から3カ月程度かかるといわれているので、治療終了後も最低3カ月は厳重な経過観察をして、再発の早期発見に努める必要がある。本人が治癒しても、パートナーがHPVを保持しているかぎり再感染の可能性があるので、パートナーも必ず専門医を受診し、症状があれば治療をすることが重要である。また、垂直感染を予防するために、妊婦で発症した場合には分娩までに治療を終了するべきである。

ヒトパピローマウイルスは皮膚や粘膜の微小な傷から侵入、感染する。従って、感染予防にはコンドームの使用が効果的であるが、外陰部にアトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎などがある場合は特に感染しやすいので注意を要する。

ウシパピローマウイルス感染がワクチンで予防できることから、ヒトパピローマウイルスに対する感染予防ワクチンは、高リスク型の中で最も高頻度で検出される16型を中心に開発が進められており、米国で第1相試験が行われている。ワクチンによって感染防御抗体をヒトに誘導できることが明らかになると同時に、感染中和抗体が高い型特異性を示すことがわかり、多数の型の感染を予防するワクチンの開発が課題となっている。

感染症法における取り扱い

尖形コンジロームは4類感染症定点把握疾患であり、全国約900カ所の性感染症定点医療機関より毎月報告がなされる。報告のための基準は以下のとおりである。

診断した医師の判断により、症状や所見から尖形コンジロームが疑われ、かつ、以下の基準を満たすもの

- ・男女ともに、性器及びその周辺に淡紅色または褐色調の乳頭状、または鶏冠状の特徴的病変を認めるもの。

(国立感染症研究所遺伝子解析室 神田忠仁)

【訂正】

前週号(2002年第25週、通巻第4巻 第25号)の感染症の話「日本紅斑熱」の「疫学」において、ヤマトマダニの学名が間違っていましたので、以下のように訂正いたします。

< 誤 > ヤマトマダニ(*Haemaphysalis japonica*)

< 正 > ヤマトマダニ(*Ixodes ovatus*)



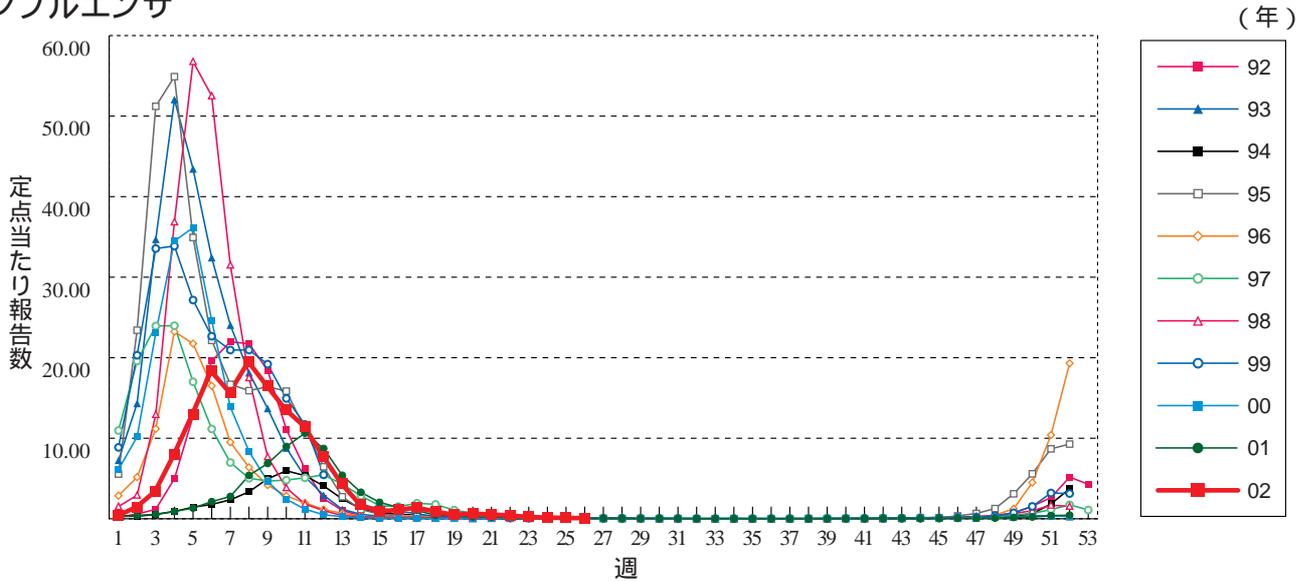
読者のコーナー

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

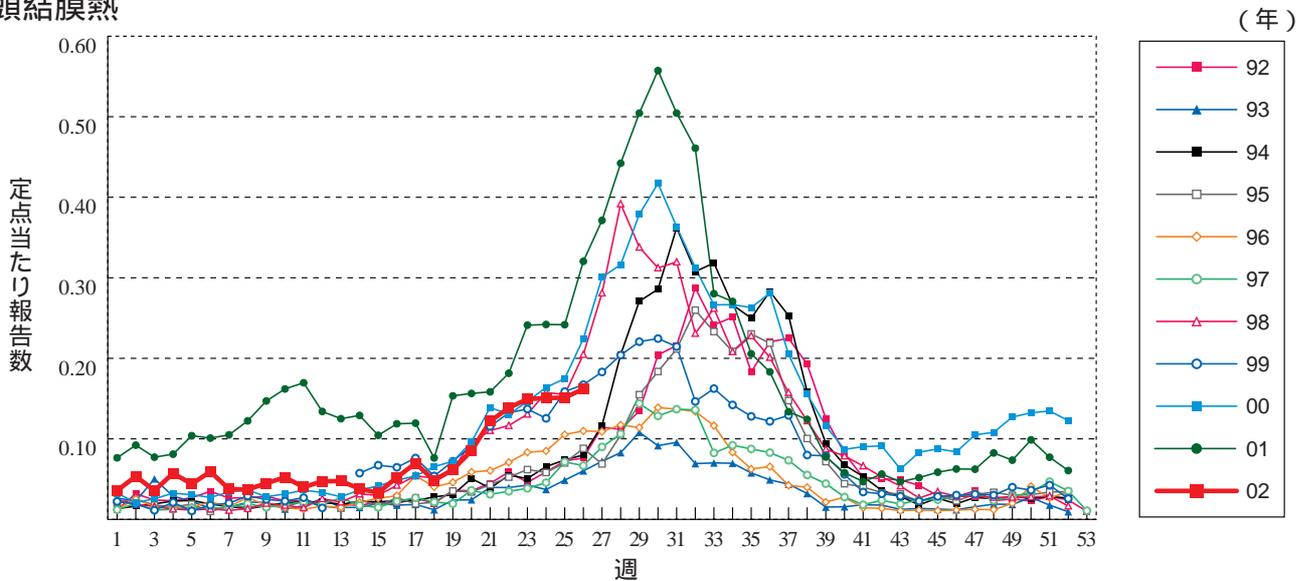
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(26週)

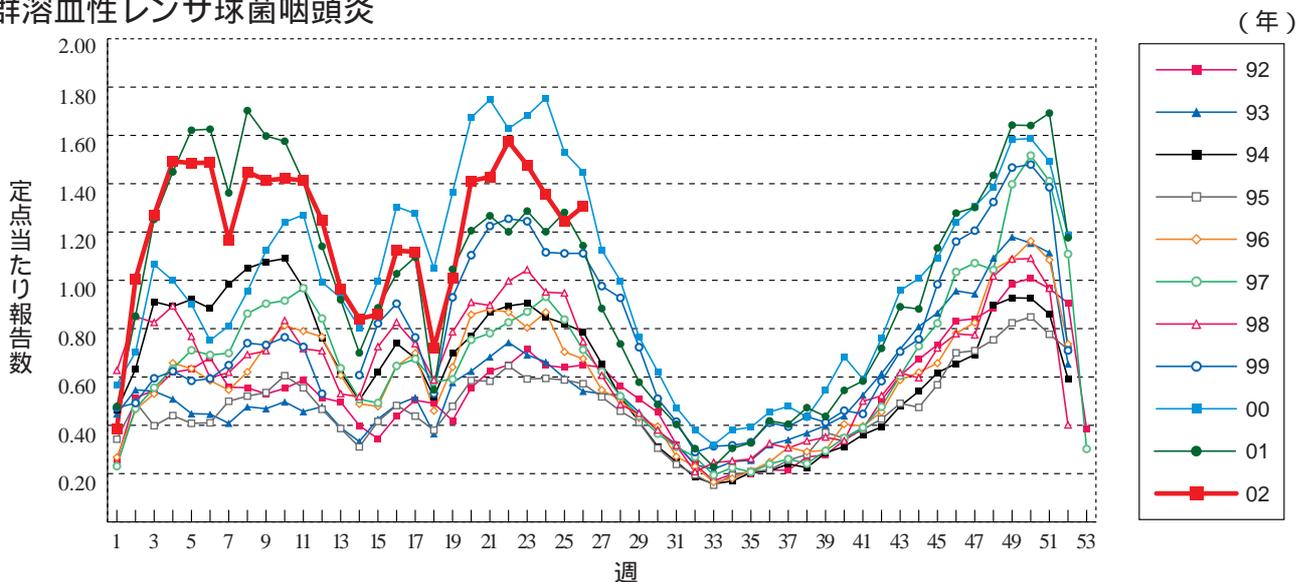
インフルエンザ



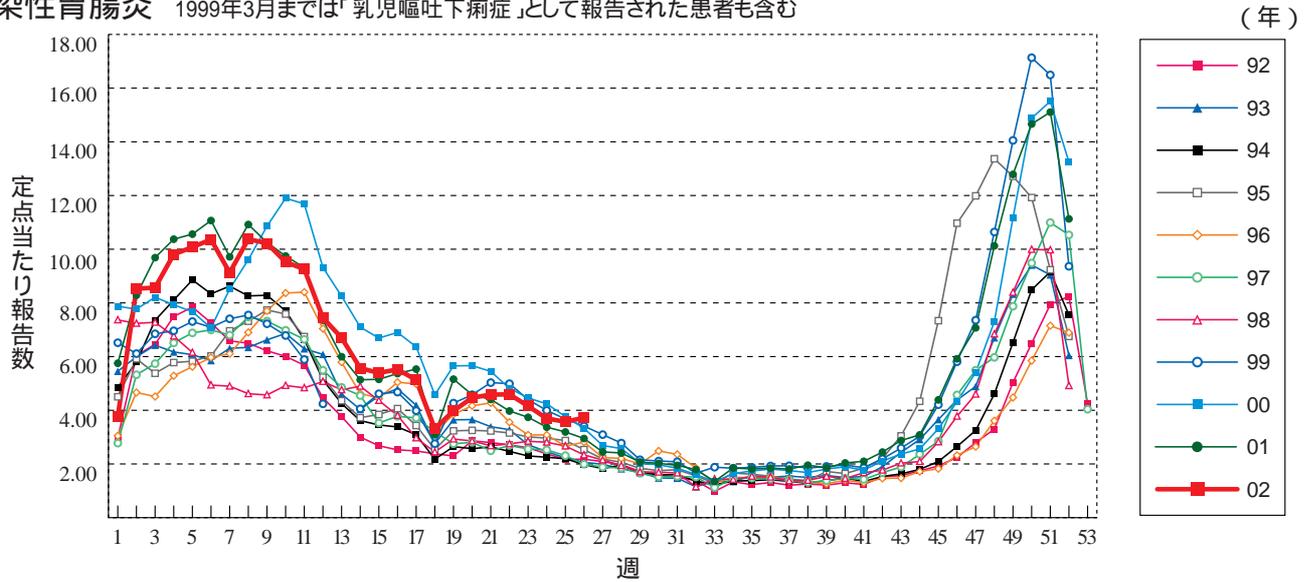
咽頭結膜熱



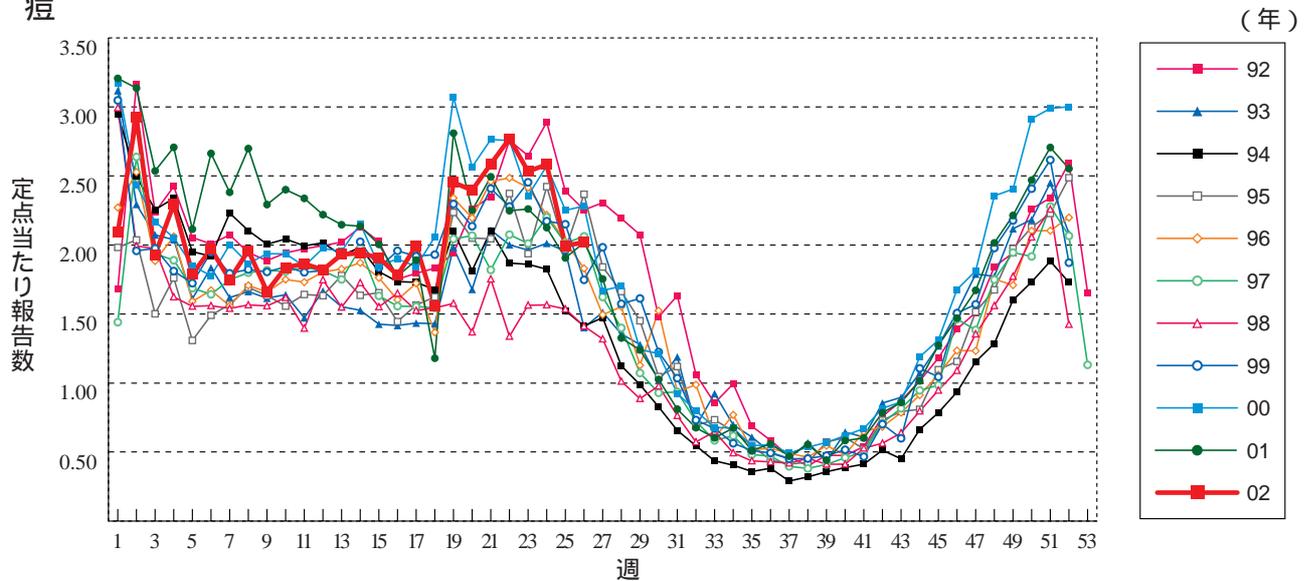
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



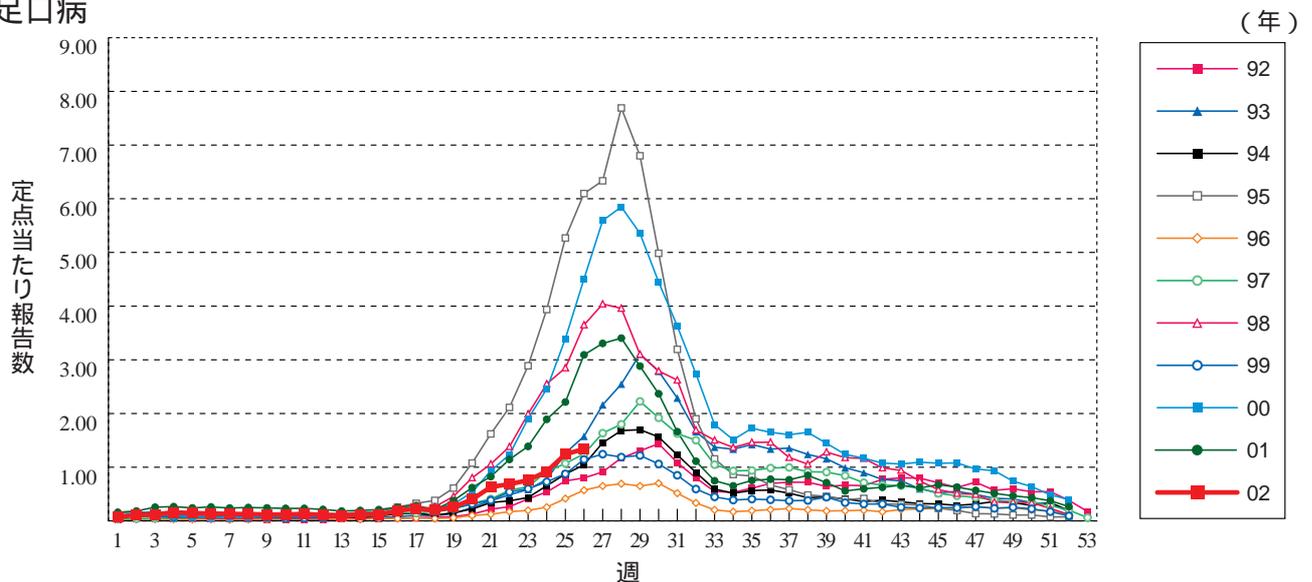
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



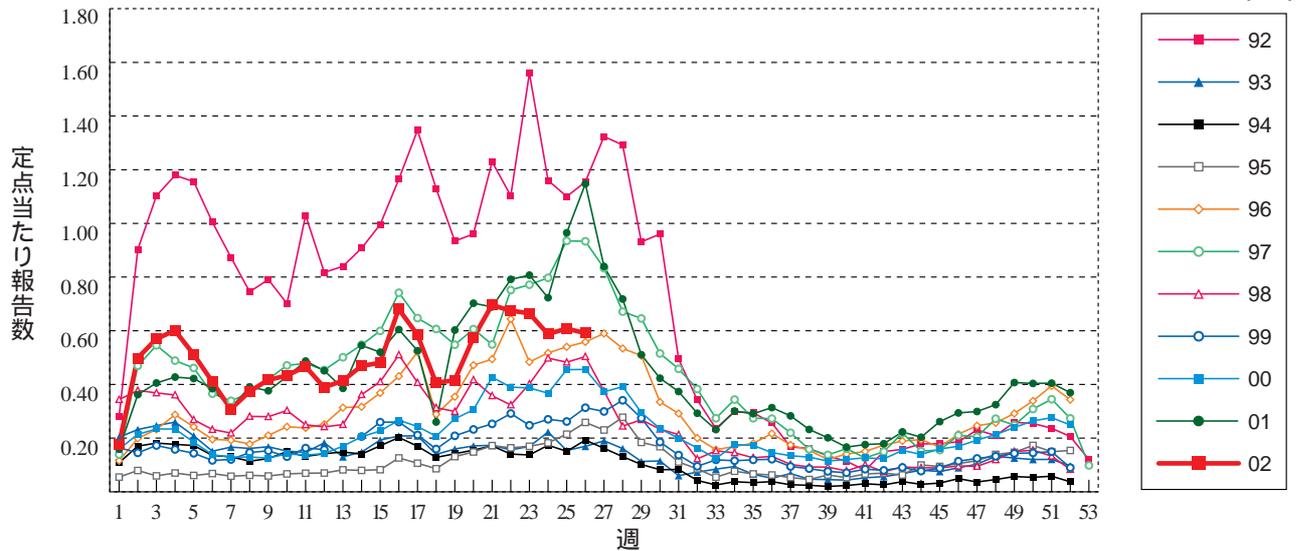
水痘



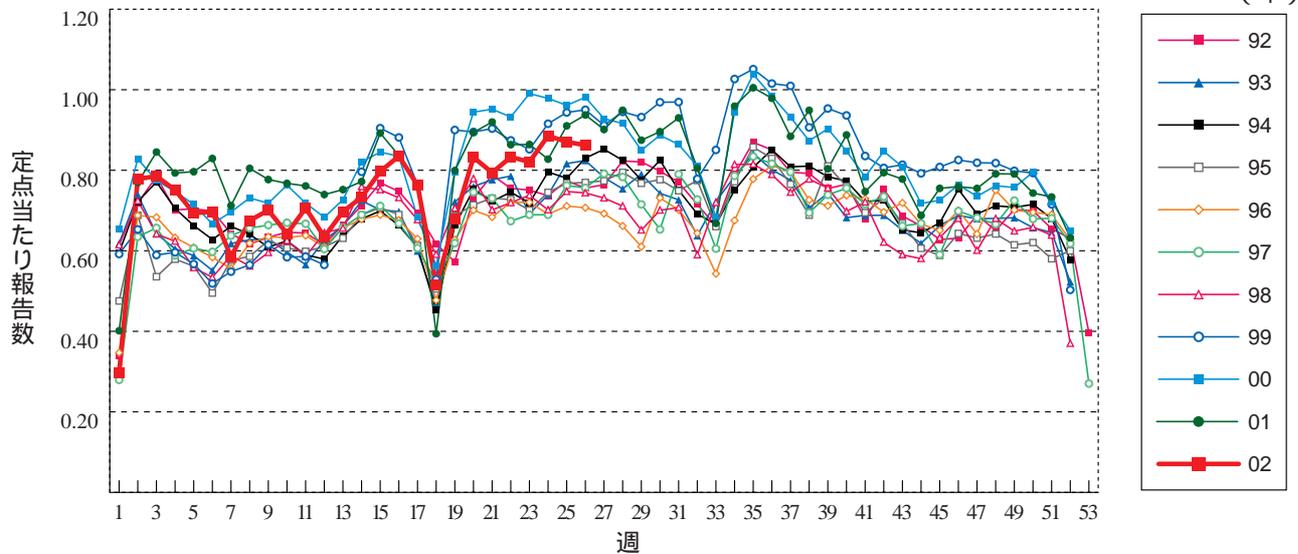
手足口病



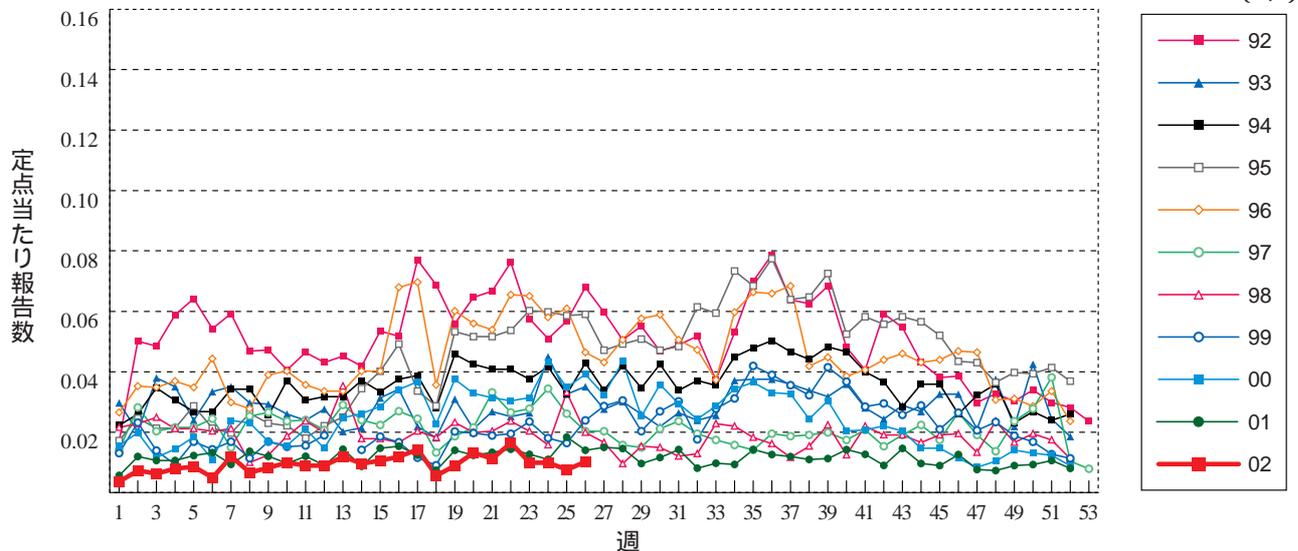
伝染性紅斑



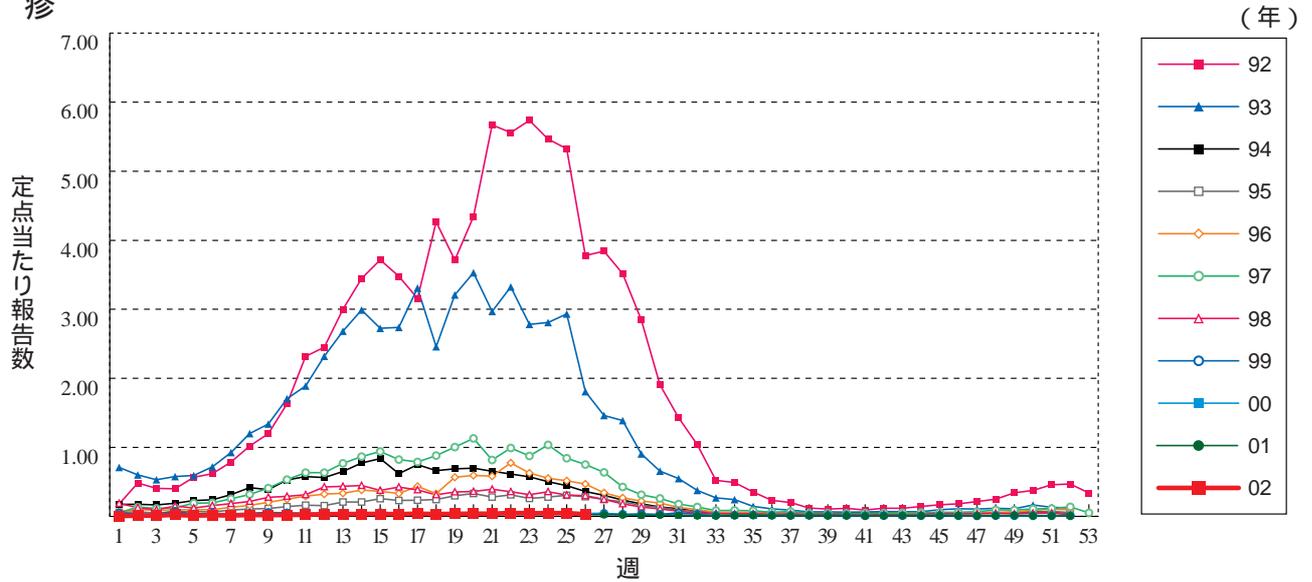
突発性発疹



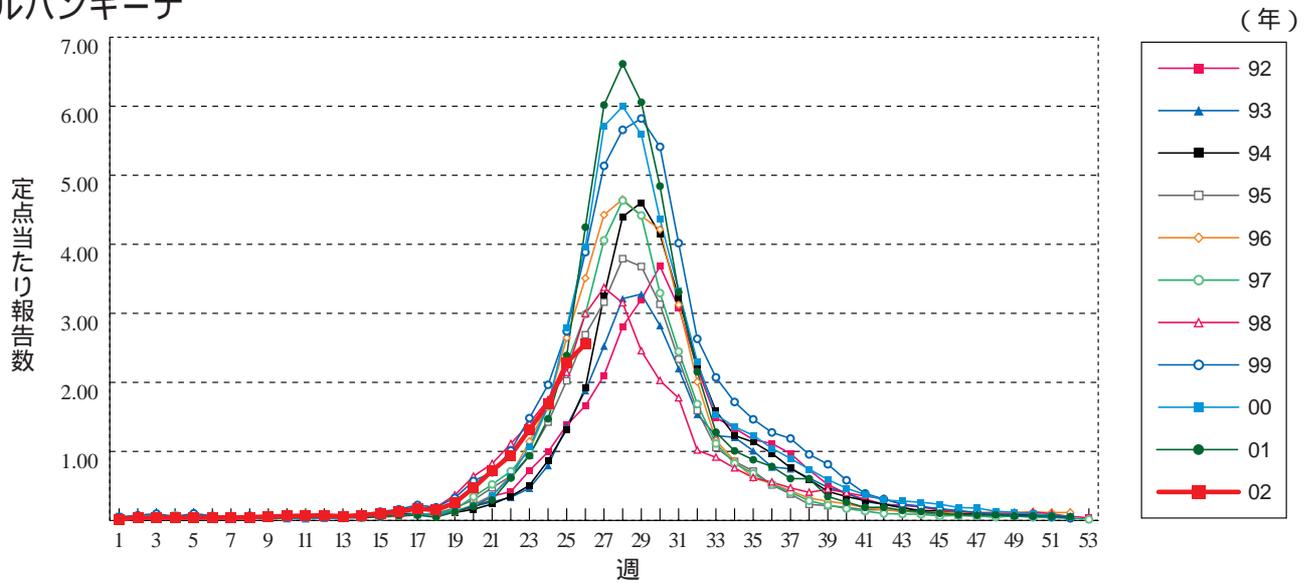
百日咳



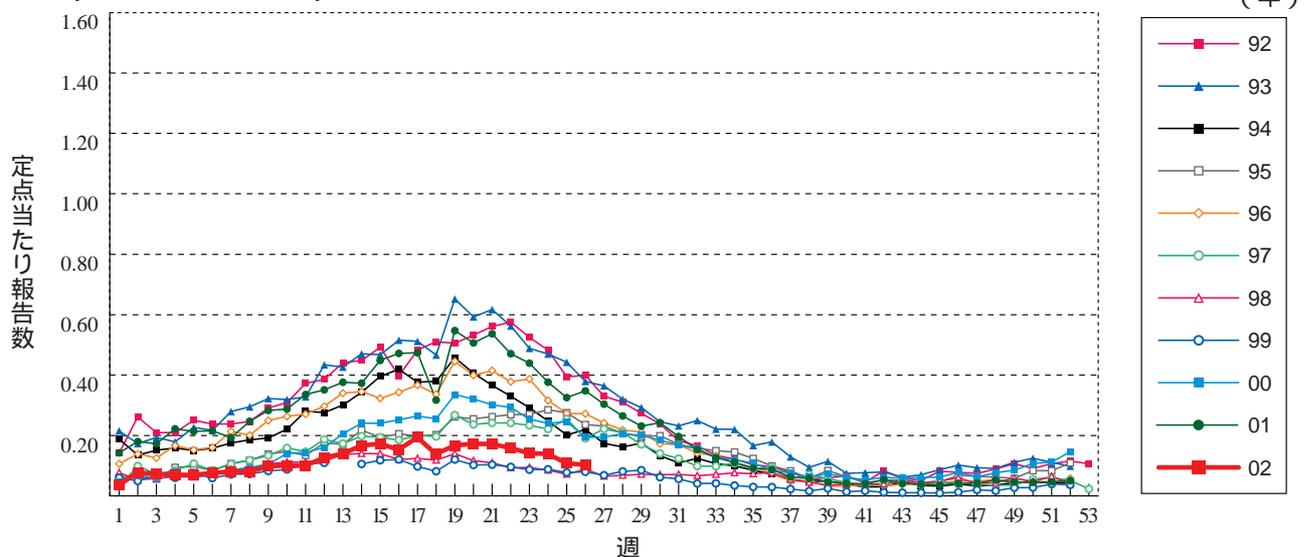
風 疹



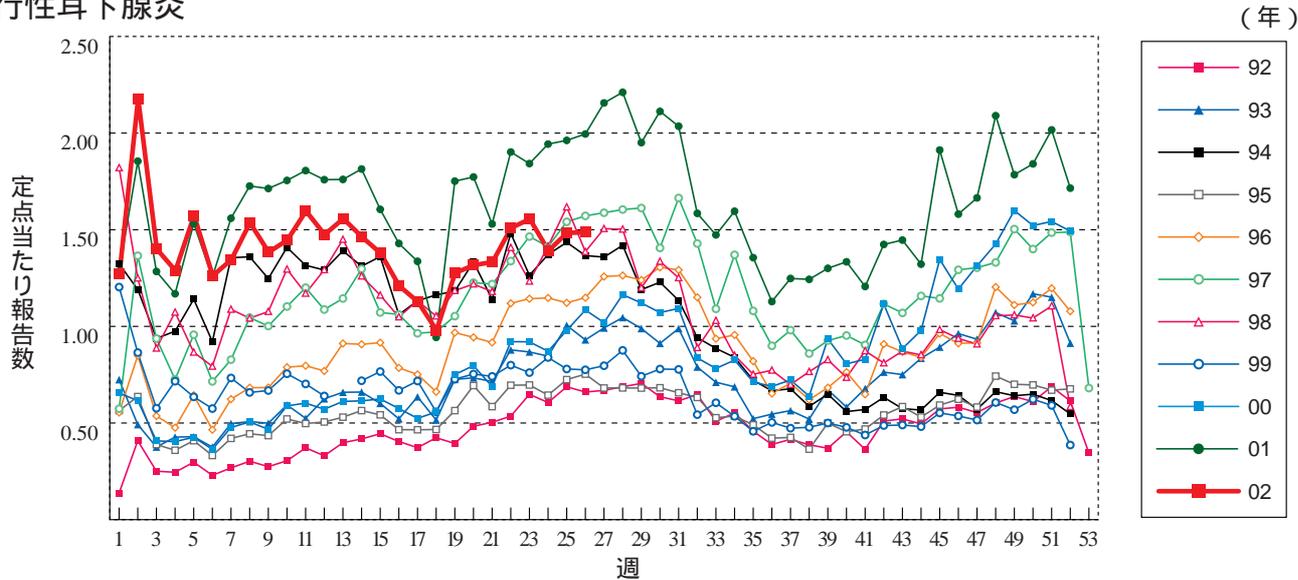
ヘルパンギーナ



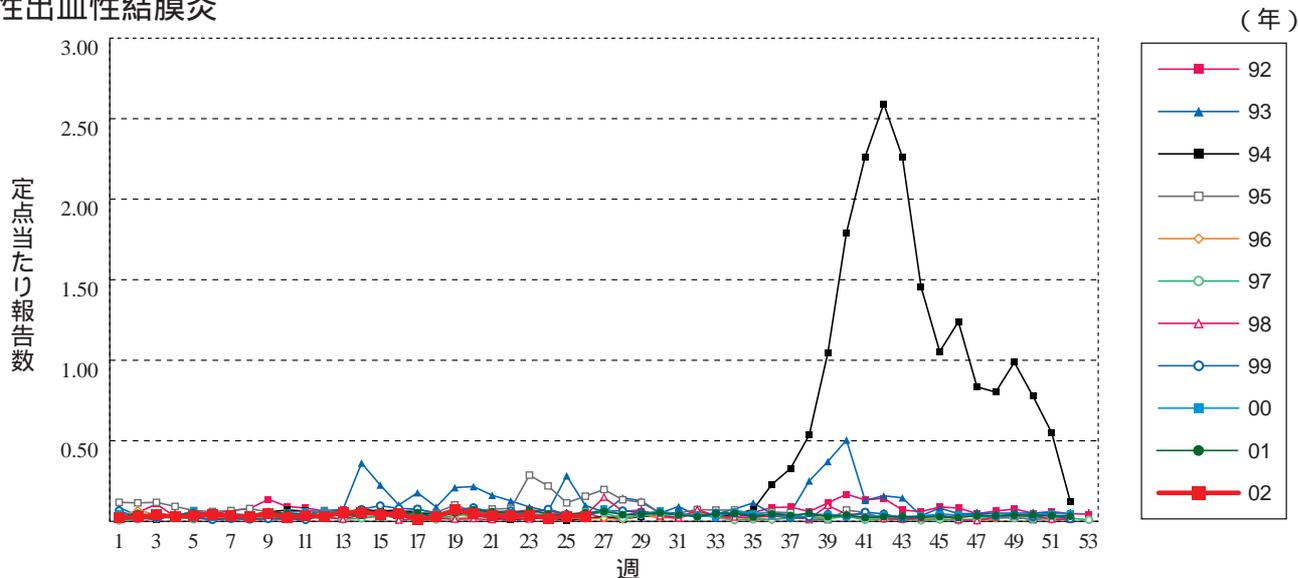
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



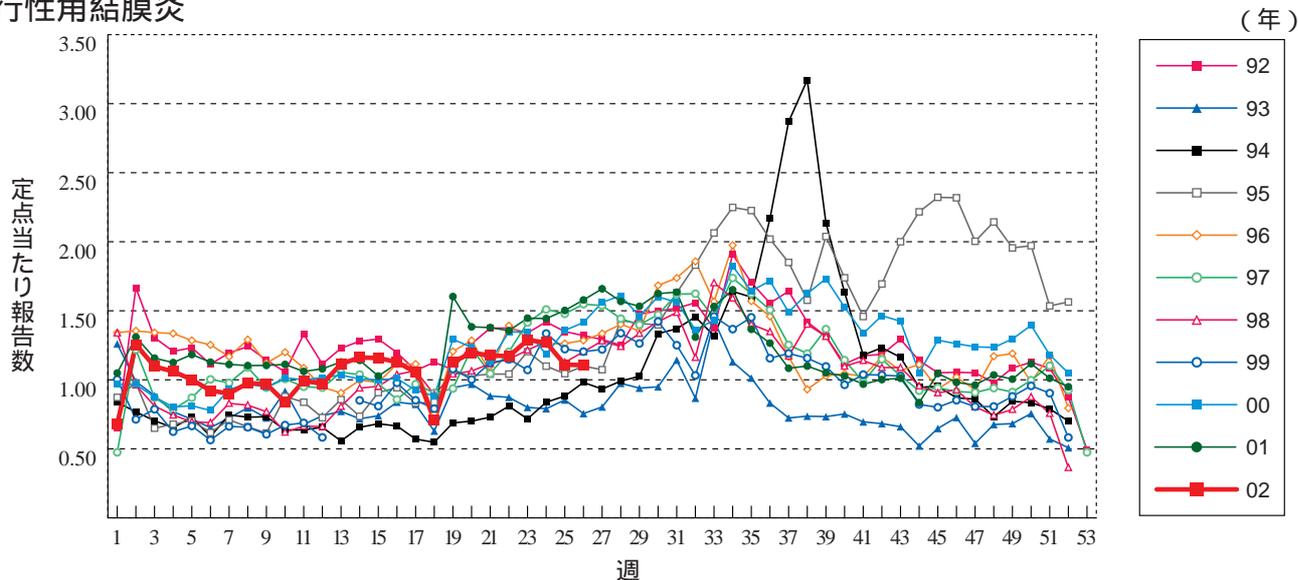
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

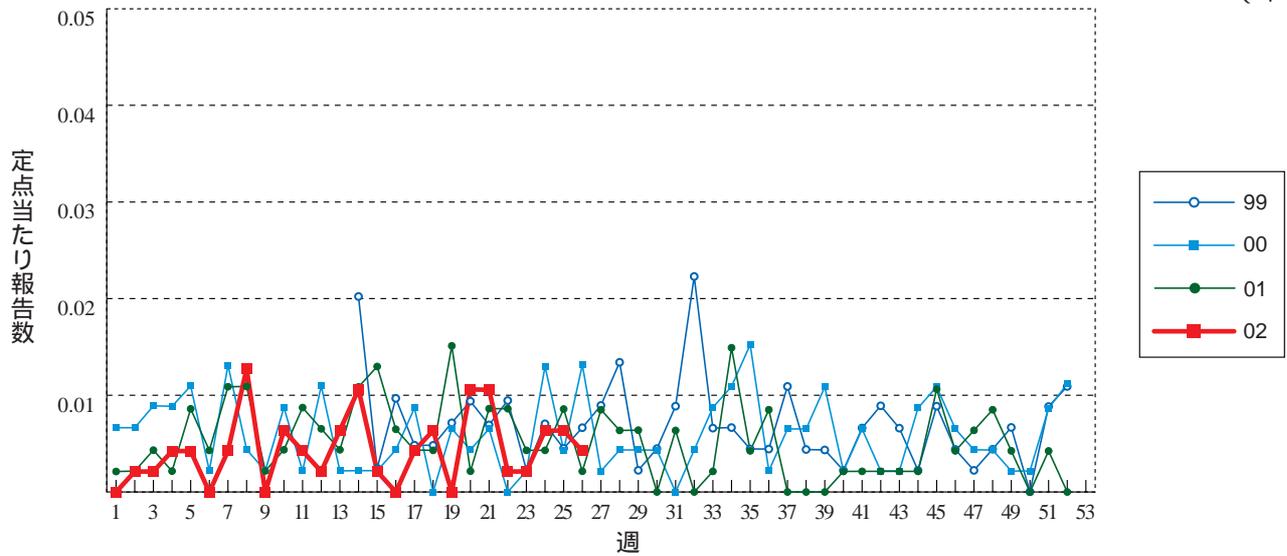


流行性角結膜炎



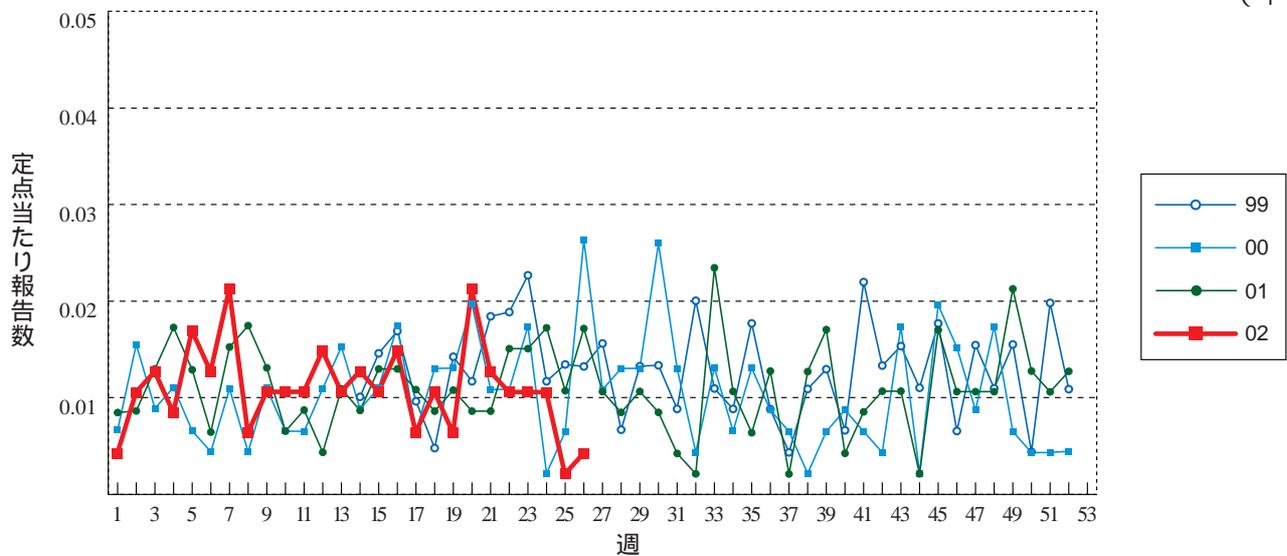
急性脳炎（日本脳炎を除く）

(年)



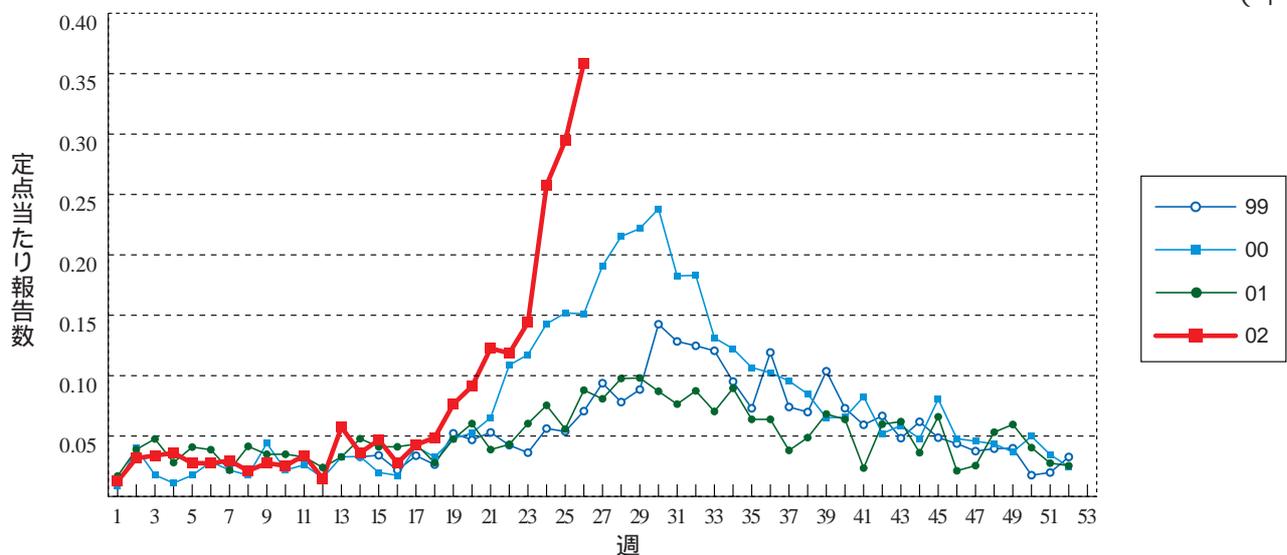
細菌性髄膜炎

(年)



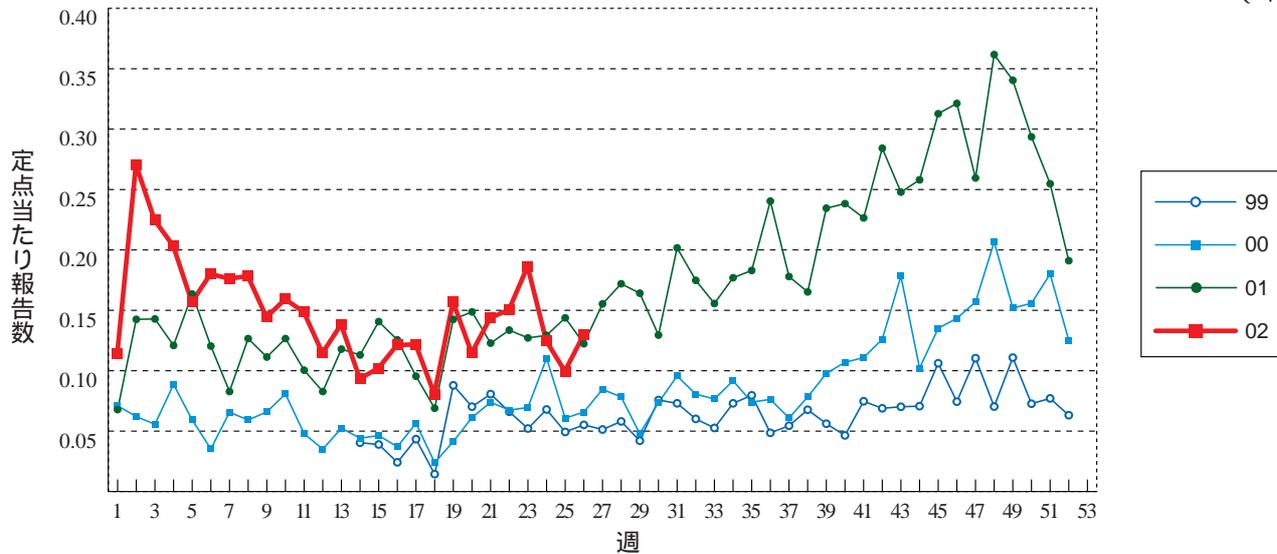
無菌性髄膜炎

(年)



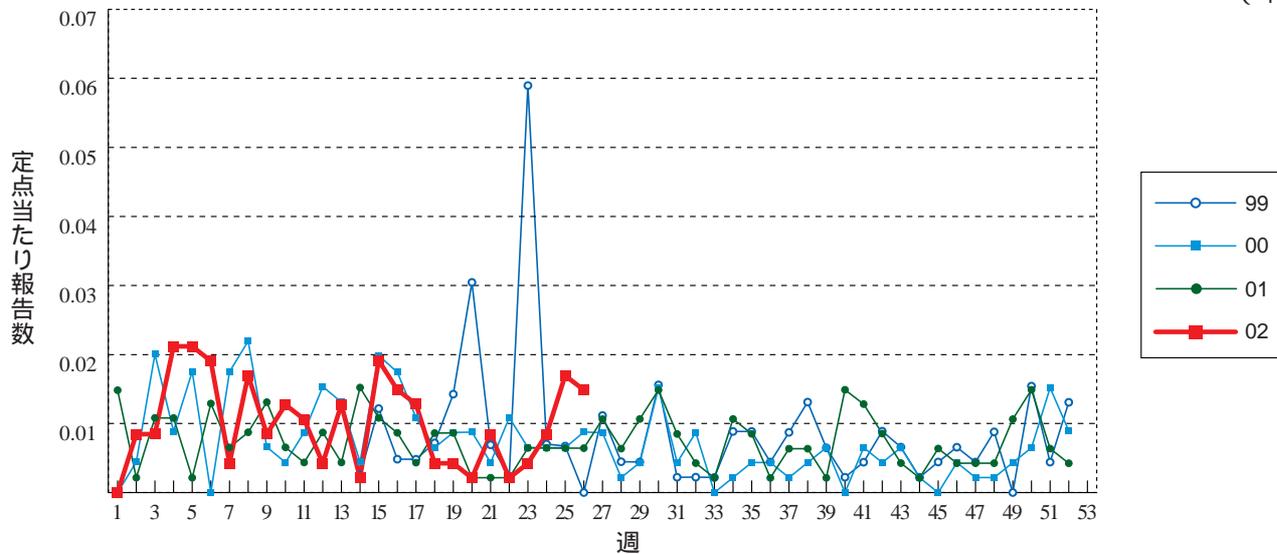
マイコプラズマ肺炎

(年)



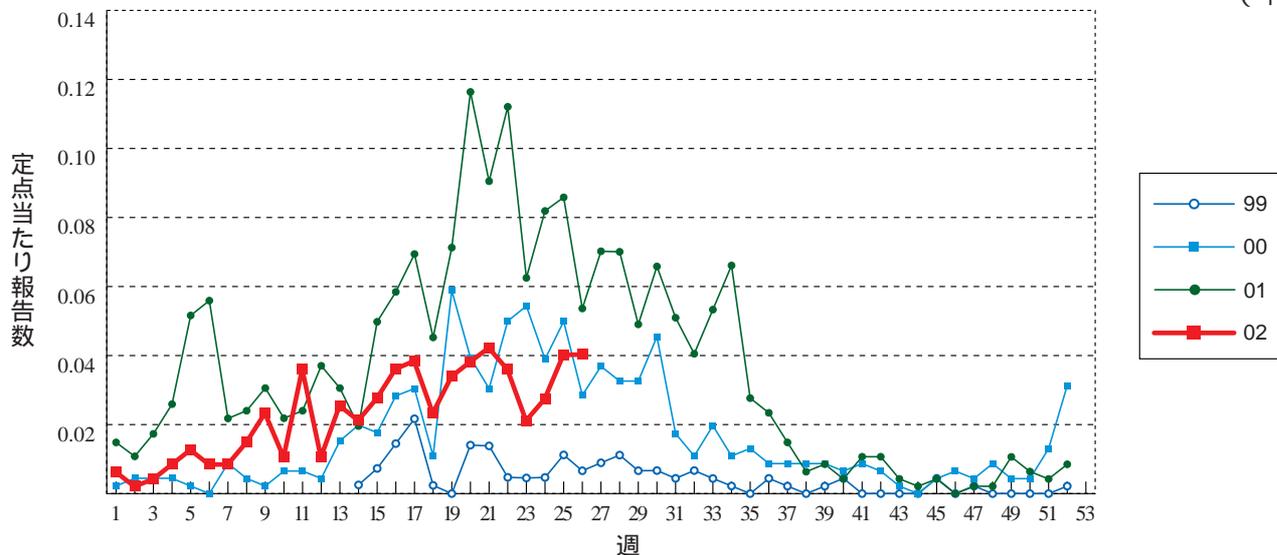
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





26週のデータ

注)表中の報告数は7月5日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年26週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15	4	408	-	33	2	20
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7	-	1	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	7	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	-	1	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	1	-	1	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	67	-	1	-	-	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	1	44	-	15	1	8
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-	3	-	-	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	6	-	-	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	-	-	-	1	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	1	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	-	-	-	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	-	-	1	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	1	2	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-	3	-	2	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7	-	3	-	1	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	3	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年26週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	83	862	3	221	-	4	-	-	-	39	-	-	6	573
北海道	-	-	-	-	4	16	-	9	-	4	-	-	-	3	-	-	-	10
青森県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	-	8	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
宮城県	-	-	-	-	1	13	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	2	28
秋田県	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
山形県	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
福島県	-	-	-	-	-	7	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10
栃木県	-	-	-	-	1	4	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
群馬県	-	-	-	-	3	16	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
埼玉県	-	-	-	-	3	8	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
千葉県	-	-	-	-	12	20	1	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
東京都	-	-	-	-	5	34	-	53	-	-	-	-	-	2	-	-	2	111
神奈川県	-	-	-	-	6	35	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
新潟県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	1	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	31	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
福井県	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	4	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	9
岐阜県	-	-	-	-	2	6	-	7	-	-	-	-	-	3	-	-	-	14
静岡県	-	-	-	-	-	9	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
愛知県	-	-	-	-	4	36	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
三重県	-	-	-	-	1	7	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	-	-	-	-	33	-	8	-	-	-	-	-	2	-	-	-	16
大阪府	-	-	-	-	8	95	1	36	-	-	-	-	-	3	-	-	-	33
兵庫県	-	-	-	-	4	103	-	9	-	-	-	-	-	2	-	-	-	27
奈良県	-	-	-	-	-	17	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
和歌山県	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	-	2	8	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
島根県	-	-	-	-	2	15	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	-	42	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	14
広島県	-	-	-	-	2	20	-	2	-	-	-	-	-	8	-	-	-	11
山口県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	17
徳島県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
香川県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
高知県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
福岡県	-	-	-	-	1	29	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
佐賀県	-	-	-	-	14	100	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	1	17	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	3	22	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
大分県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮崎県	-	-	-	-	1	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
鹿児島県	-	-	-	-	1	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
沖縄県	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年26週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	23	-	-	3	103	1	62	1	50	8	400	-	2	-	55	-	-
北海道	-	1	-	-	-	34	-	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	7	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	1	11	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	3	5	-	1	-	3	-	21	-	-	-	4	-	-
東京都	-	18	-	-	-	2	-	4	1	6	3	168	-	-	-	30	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	2	28	-	-	-	5	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3	-	-	-	2	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	15	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	3	-	11	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	5	-	4	-	22	-	-	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	6	-	-	-	2	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	1	35	-	1	-	4	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	61	-	3	-	4	-	8	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年26週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	3	-	-	-	-	1	107	-	26	-	4	-	-	-	-	5	272
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
青森県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	-	1	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山形県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	4
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
東京都	-	-	-	-	-	-	-	4	-	8	-	-	-	-	-	-	-	27
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	15
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 6
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	15
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	53
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	3	16
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
広島県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
大分県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年26週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	3	41	-	17	-	-	-	-	-	1	-	-	3	41	1	4	1	47
北海道	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
山形県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福島県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
茨城県	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	1	
栃木県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
群馬県	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	
千葉県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	
東京都	-	3	-	4	-	-	-	-	1	-	-	-	10	1	1	-	8	
神奈川県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	
富山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
愛知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
京都府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	
大阪府	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	6	
兵庫県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
広島県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
佐賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
大分県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
鹿児島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年26週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	340	0.07	491	0.16	3957	1.31	11274	3.72	6121	2.02	4056	1.34	1793	0.59	2613	0.86	31	0.01
北海道	5	0.02	28	0.19	342	2.36	276	1.90	410	2.83	53	0.37	67	0.46	98	0.68	-	-
青森県	8	0.12	8	0.19	20	0.48	64	1.52	111	2.64	39	0.93	57	1.36	25	0.60	-	-
岩手県	37	0.60	-	-	22	0.58	102	2.68	112	2.95	50	1.32	6	0.16	27	0.71	1	0.03
宮城県	20	0.21	1	0.02	62	1.05	460	7.80	199	3.37	121	2.05	33	0.56	56	0.95	-	-
秋田県	8	0.15	8	0.23	32	0.91	135	3.86	66	1.89	15	0.43	33	0.94	10	0.29	1	0.03
山形県	6	0.13	-	-	47	1.57	79	2.63	91	3.03	26	0.87	24	0.80	29	0.97	1	0.03
福島県	-	-	1	0.02	49	1.07	233	5.07	228	4.96	95	2.07	88	1.91	47	1.02	1	0.02
茨城県	3	0.03	-	-	82	1.11	172	2.32	176	2.38	112	1.51	75	1.01	39	0.53	-	-
栃木県	-	-	3	0.07	62	1.35	160	3.48	133	2.89	51	1.11	59	1.28	45	0.98	1	0.02
群馬県	-	-	12	0.19	76	1.23	120	1.94	99	1.60	35	0.56	58	0.94	33	0.53	2	0.03
埼玉県	1	0.00	52	0.33	260	1.64	698	4.39	464	2.92	268	1.69	99	0.62	182	1.14	2	0.01
千葉県	-	-	23	0.17	244	1.85	482	3.65	326	2.47	182	1.38	47	0.36	103	0.78	1	0.01
東京都	-	-	21	0.15	108	0.76	429	3.02	180	1.27	202	1.42	46	0.32	70	0.49	1	0.01
神奈川県	3	0.01	39	0.19	224	1.09	684	3.32	344	1.67	901	4.37	135	0.66	213	1.03	-	-
新潟県	11	0.11	7	0.12	101	1.68	261	4.35	155	2.58	38	0.63	75	1.25	52	0.87	2	0.03
富山県	1	0.02	1	0.03	63	2.17	133	4.59	56	1.93	52	1.79	47	1.62	22	0.76	-	-
石川県	-	-	1	0.03	24	0.83	153	5.28	80	2.76	26	0.90	24	0.83	34	1.17	-	-
福井県	-	-	9	0.41	41	1.86	127	5.77	42	1.91	6	0.27	8	0.36	17	0.77	-	-
山梨県	4	0.10	-	-	21	0.84	41	1.64	22	0.88	4	0.16	6	0.24	18	0.72	-	-
長野県	-	-	15	0.28	134	2.48	247	4.57	130	2.41	43	0.80	77	1.43	42	0.78	-	-
岐阜県	-	-	6	0.13	63	1.34	117	2.49	113	2.40	23	0.49	31	0.66	39	0.83	-	-
静岡県	-	-	12	0.14	112	1.30	370	4.30	135	1.57	130	1.51	106	1.23	92	1.07	3	0.03
愛知県	-	-	23	0.13	234	1.29	515	2.83	253	1.39	393	2.16	68	0.37	167	0.92	1	0.01
三重県	-	-	6	0.13	71	1.58	293	6.51	78	1.73	18	0.40	39	0.87	60	1.33	1	0.02
滋賀県	-	-	20	0.63	20	0.63	93	2.91	62	1.94	15	0.47	6	0.19	21	0.66	2	0.06
京都府	1	0.01	3	0.04	87	1.14	411	5.41	105	1.38	16	0.21	29	0.38	41	0.54	-	-
大阪府	12	0.04	34	0.17	199	1.02	642	3.29	313	1.61	236	1.21	92	0.47	164	0.84	-	-
兵庫県	1	0.01	38	0.30	144	1.13	595	4.65	287	2.24	193	1.51	89	0.70	105	0.82	3	0.02
奈良県	-	-	-	-	23	0.66	130	3.71	48	1.37	71	2.03	26	0.74	27	0.77	1	0.03
和歌山県	-	-	4	0.13	25	0.81	97	3.13	78	2.52	63	2.03	14	0.45	25	0.81	-	-
鳥取県	-	-	10	0.53	32	1.68	100	5.26	40	2.11	45	2.37	30	1.58	18	0.95	-	-
島根県	1	0.03	3	0.13	12	0.52	57	2.48	34	1.48	18	0.78	14	0.61	16	0.70	-	-
岡山県	1	0.01	1	0.02	29	0.66	130	2.95	68	1.55	128	2.91	10	0.23	35	0.80	-	-
広島県	-	-	16	0.21	68	0.91	238	3.17	73	0.97	69	0.92	13	0.17	78	1.04	1	0.01
山口県	2	0.03	7	0.14	84	1.71	250	5.10	103	2.10	2	0.04	31	0.63	53	1.08	2	0.04
徳島県	16	0.42	1	0.04	28	1.22	68	2.96	35	1.52	14	0.61	10	0.43	18	0.78	-	-
香川県	-	-	2	0.06	38	1.19	116	3.63	37	1.16	67	2.09	11	0.34	29	0.91	-	-
愛媛県	-	-	20	0.51	85	2.18	219	5.62	90	2.31	14	0.36	28	0.72	46	1.18	1	0.03
高知県	-	-	6	0.19	30	0.97	62	2.00	30	0.97	71	2.29	7	0.23	18	0.58	-	-
福岡県	2	0.01	12	0.10	210	1.75	640	5.33	238	1.98	30	0.25	14	0.12	128	1.07	1	0.01
佐賀県	-	-	-	-	46	2.00	44	1.91	38	1.65	2	0.09	7	0.30	36	1.57	-	-
長崎県	1	0.01	5	0.11	32	0.73	123	2.80	53	1.20	4	0.09	21	0.48	27	0.61	-	-
熊本県	3	0.04	2	0.04	86	1.76	224	4.57	102	2.08	4	0.08	4	0.08	62	1.27	1	0.02
大分県	3	0.05	3	0.08	68	1.89	192	5.33	95	2.64	3	0.08	6	0.17	53	1.47	-	-
宮崎県	-	-	13	0.35	69	1.86	240	6.49	59	1.59	4	0.11	10	0.27	42	1.14	-	-
鹿児島県	9	0.09	13	0.22	42	0.70	238	3.97	77	1.28	15	0.25	11	0.18	46	0.77	-	-
沖縄県	181	3.12	2	0.06	6	0.18	14	0.41	53	1.56	89	2.62	2	0.06	5	0.15	1	0.03

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年26週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	96	0.03	7742	2.56	310	0.10	4506	1.49	20	0.03	700	1.11	2	0.00	2	0.00	169	0.36
北海道	3	0.02	54	0.37	-	-	127	0.88	-	-	31	1.07	-	-	-	-	-	-
青森県	4	0.10	104	2.48	19	0.45	108	2.57	-	-	13	1.18	-	-	-	-	2	0.40
岩手県	-	-	106	2.79	1	0.03	185	4.87	1	0.08	12	1.00	-	-	-	-	-	-
宮城県	4	0.07	55	0.93	9	0.15	197	3.34	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	45	1.29	4	0.11	80	2.29	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	131	4.37	3	0.10	127	4.23	1	0.13	4	0.50	-	-	-	-	2	0.20
福島県	-	-	127	2.76	12	0.26	149	3.24	-	-	17	1.42	-	-	-	-	-	-
茨城県	1	0.01	139	1.88	13	0.18	53	0.72	-	-	42	2.63	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	169	3.67	-	-	89	1.93	-	-	18	1.50	-	-	-	-	2	0.29
群馬県	1	0.02	291	4.69	3	0.05	104	1.68	2	0.14	83	5.93	-	-	-	-	-	-
埼玉県	2	0.01	527	3.31	9	0.06	171	1.08	-	-	46	1.31	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	622	4.71	21	0.16	163	1.23	-	-	37	1.06	-	-	-	-	2	0.15
東京都	1	0.01	437	3.08	17	0.12	93	0.65	1	0.07	32	2.29	-	-	-	-	-	-
神奈川県	5	0.02	924	4.49	21	0.10	225	1.09	5	0.12	58	1.38	-	-	-	-	1	0.09
新潟県	-	-	331	5.52	1	0.02	140	2.33	-	-	4	0.44	-	-	-	-	1	0.08
富山県	2	0.07	136	4.69	2	0.07	65	2.24	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	44	1.52	2	0.07	19	0.66	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
福井県	2	0.09	48	2.18	2	0.09	9	0.41	-	-	-	-	-	-	-	-	15	2.50
山梨県	-	-	11	0.44	2	0.08	61	2.44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	70	1.30	6	0.11	81	1.50	-	-	19	1.90	-	-	-	-	1	0.09
岐阜県	1	0.02	101	2.15	23	0.49	51	1.09	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	328	3.81	12	0.14	145	1.69	-	-	11	0.55	-	-	-	-	4	0.40
愛知県	4	0.02	473	2.60	35	0.19	171	0.94	2	0.06	11	0.31	-	-	-	-	2	0.15
三重県	-	-	136	3.02	3	0.07	58	1.29	-	-	5	0.42	-	-	-	-	14	1.56
滋賀県	-	-	28	0.88	1	0.03	39	1.22	-	-	4	0.57	-	-	-	-	16	2.29
京都府	9	0.12	83	1.09	4	0.05	48	0.63	-	-	8	0.44	-	-	-	-	3	0.50
大阪府	6	0.03	532	2.73	13	0.07	162	0.83	3	0.06	15	0.29	-	-	-	-	6	0.40
兵庫県	7	0.05	326	2.55	14	0.11	208	1.63	-	-	34	0.94	1	0.08	-	-	7	0.54
奈良県	-	-	79	2.26	6	0.17	53	1.51	1	0.11	5	0.56	1	0.17	-	-	2	0.33
和歌山県	-	-	23	0.74	1	0.03	57	1.84	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	53	2.79	1	0.05	58	3.05	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.20
島根県	-	-	25	1.09	1	0.04	47	2.04	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.13
岡山県	10	0.23	27	0.61	5	0.11	130	2.95	-	-	17	2.13	-	-	1	0.25	10	2.50
広島県	2	0.03	148	1.97	3	0.04	84	1.12	-	-	20	1.00	-	-	-	-	22	1.05
山口県	-	-	105	2.14	1	0.02	64	1.31	-	-	15	1.67	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	26	1.13	-	-	31	1.35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	25	0.78	7	0.22	21	0.66	-	-	3	1.00	-	-	-	-	2	0.40
愛媛県	-	-	68	1.74	-	-	67	1.72	-	-	11	1.57	-	-	-	-	3	0.50
高知県	-	-	26	0.84	-	-	25	0.81	-	-	8	2.67	-	-	-	-	10	1.25
福岡県	29	0.24	292	2.43	17	0.14	139	1.16	1	0.04	40	1.54	-	-	-	-	5	0.33
佐賀県	-	-	32	1.39	4	0.17	23	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	38	0.86	1	0.02	87	1.98	2	0.25	9	1.13	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	132	2.69	1	0.02	18	0.37	1	0.11	15	1.67	-	-	1	0.07	27	1.80
大分県	-	-	71	1.97	9	0.25	126	3.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	3	0.08	123	3.32	-	-	135	3.65	-	-	13	3.25	-	-	-	-	5	0.71
鹿児島県	-	-	68	1.13	-	-	141	2.35	-	-	10	1.67	-	-	-	-	2	0.17
沖縄県	-	-	3	0.09	1	0.03	72	2.12	-	-	15	1.50	-	-	-	-	1	0.14

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成14年26週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	61	0.13	7	0.01	19	0.04
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	4	0.20	-	-	-	-
宮城県	4	0.33	5	0.42	-	-
秋田県	3	0.38	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	4	0.40
埼玉県	1	0.11	1	0.11	-	-
千葉県	1	0.08	-	-	2	0.15
東京都	1	0.04	-	-	6	0.24
神奈川県	2	0.18	-	-	2	0.18
新潟県	6	0.46	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	1	0.17	-	-	-	-
山梨県	3	0.30	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	1	0.09
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.10	-	-	1	0.10
愛知県	2	0.15	-	-	1	0.08
三重県	-	-	1	0.11	1	0.11
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	1	0.17	-	-	-	-
大阪府	1	0.07	-	-	-	-
兵庫県	1	0.08	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	1	0.20
島根県	2	0.25	-	-	-	-
岡山県	1	0.25	-	-	-	-
広島県	4	0.19	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.20	-	-	-	-
愛媛県	2	0.33	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	1	0.07	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	1	0.08	-	-	-	-
熊本県	7	0.47	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	5	0.71	-	-	-	-
鹿児島県	4	0.33	-	-	-	-
沖縄県	1	0.14	-	-	-	-

感染症週報 第4巻、第26号 平成14年7月12日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>
<http://www.mhlw.go.jp/>
 <厚生労働省>
<http://www.forth.go.jp/>
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。